

1990.7.2.阿蘇地区水害における住民の防災意識に関する調査・研究

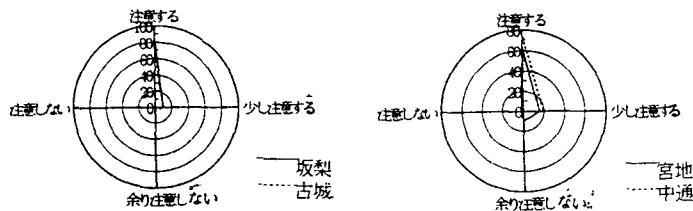
熊本大・工 ○(学)松野 隆, (正)中島重旗, 原田浩幸
熊本工大 (正)田代教大

1. はじめに

梅雨前線の影響を受け1990年6月30日より降りだした雨は7月2日には大雨となり阿蘇一の宮町に死者を出す水害を引き起こした。この水害に対し各方面より、原因および状況に関する調査・研究が行われた。著者らはそのうち、水害情報伝達経路と避難行動および住民の防災意識について担当しアンケート調査を行ったので、その結果を報告する。

2. 調査対象地域の概要

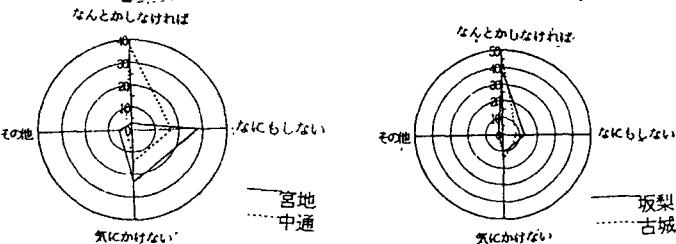
調査対象地区は一の宮町である(図1)。一の宮町を坂梨, 古城, 中通, 宮地地区に分け(一の宮役場による)アンケートを配布・回収した(内容を表1に示す)。また、各地区の回収率を表2に示す。



[図2] 大雨警報が出されたとき、あなたは注意しますか。

3. 防災無線システム

一の宮町は昭和51年阿蘇群発地震を経験し、その後、防災無線が図1に示すように27の同報系局として整備設置された。



4. 調査結果と考察

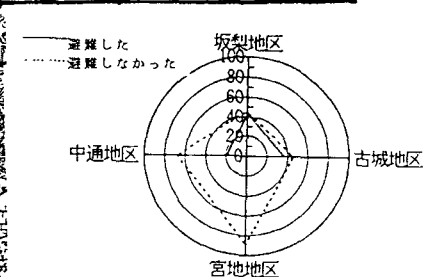
4.1. 防災意識について：図2に示すように大雨警報に対して“注意”が4地区とも80%を超える回答をしているが72%の行動で見ると(図3)宮地において“注意”に相当する行動が見られなくなり、中通では約半数の回答となる。この差は危険意識によるものと思われ、図4に見るように避難した人と避難しなかった人が約半数である坂梨, 古城地区において避難の理由(図5)に“危険性”をあげる割合が高くなっており、逆に避難しなかった理由(図6)に“安全性”の回答が多くなっている。防災に対する係わり合い方の結果を表3に示す。“連絡体制”や“消防団活動”回答が多く“訓練”や“防災組織”など主体的な係わり



[図1]一の宮町地図

(アンケート対象区、
防災無線位置)

[図3] それを聞いてどう思いましたか。



[図4] 今回の災害であなたは避難しましたか

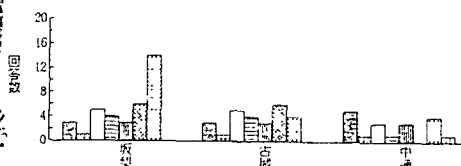


図1. 市や防災機関の避難命令 図2. テレビ・ラジオの災害危険の情報
図3. 消防団員の避難指示や放送 図4. 近所の知人等との相談
図5. 町内会、自治会、自主防災組織の避難のよびかけ・伝達
図6. 家族間の相談 図7. 気象情報がよいよ危険なところまできたため
図8. その他

[図5] 避難しようとした一番の理由は何ですか？

合いはできれば避けたいという意識が表れているように思われ特に被害の少ない地区においてその傾向は顕著である。

4.2. 情報伝達経路と避難行動

避難行動の原理は図3、4で指摘したように危険意識に基づくものであった。しかし、役場、町内会、消防団を一つの公的メディアとしてとらえると、その回答率は高く防災無縁が有効に活躍したものと思われる。また図6の大雨警報についても同様の結果となっている。そして、情報の伝達の評価(図7)は“あまり”と“まあ”という中庸的な回答がほぼ同数であり、非常に“を”加えて認められているものと考えられた。

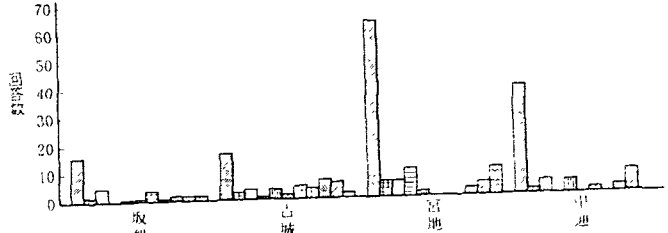
5. まとめ

阿蘇一の宮町における水害では地震災害の際に整備した防災無縁が機能し、確立された情報伝達経路は有効であると思われる。しかし、実際の行動は防災意識より住民の環境の危険度にもとづくものであり、防災活動に対する係わり合いも受け身的であった。

*本調査・研究は総合研究A(代表; 平野)の一部として行われた。

(表3)

	坂梨地区	中道地区	宮地地区
(ア) 豪雨時の情報の連絡体制を充実させる	89.7%	74.0%	83.1%
(イ) 自治会・町内会を充実させる	41.0%	50.6%	49.4%
(ウ) 市民の自主的な防災組織をつくる	33.3%	61.0%	40.4%
(エ) 消防団活動を活発にする	61.5%	59.7%	60.6%
(オ) 避難訓練などを行う	20.5%	38.9%	37.1%
	2.5%	5.2%	3.3%
	28.2%	20.8%	22.4%
	33.3%	18.2%	24.7%
	10.3%	1.3%	2.2%
	2.5%	2.6%	3.3%
	20.6%	14.3%	26.0%
	25.7%	13.1%	21.5%
	6.3%	15.7%	20.6%
	18.4%	3.3%	13.4%
	23.1%	2.2%	26.0%
	3.0%	2.6%	38.4%
	1.5%	2.6%	21.5%
	15.3%	1.3%	9.9%
	7.7%	2.6%	20.6%
	1.5%	15.7%	



- 1. 避難を必要とする、災害にはならないと思った
- ▨ 2. いざとなれば二階に逃げれば災害をしのげると思ったため
- ▨ 3. 避難をするほうがかえって危険だとおもったため
- ▨ 4. 避難は必要だったが機会を通して手遅れになったため
- ▨ 5. 避難命令や災害危険などの情報が伝わらなかったため
- ▨ 6. 避難誘導や指示が得られず、どう逃げていいかわからなかったため
- ▨ 7. 家族の帰るのを待っていたため
- ▨ 8. 子供・老人・病人などがいて避難しにくかったため
- ▨ 9. 本当に避難が必要な事態なのかどうか判断がつかなかったため
- ▨ 10. 避難先がはつきりしなかったため
- ▨ 11. その他

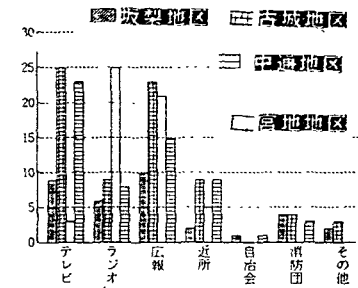
(図6) 避難しなかった一番の理由は何ですか。

(表1) アンケートの構成

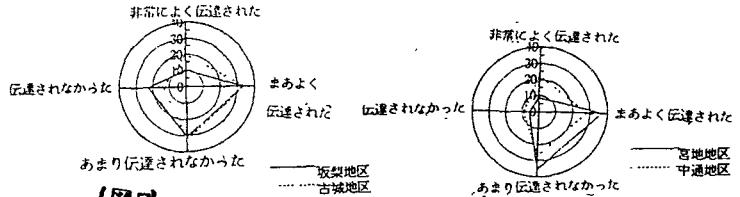
水害に対しての一般的事項	11問
7月2日の行動	14問
回答者の属性	5問

(表2) 回収率

	配布数	回収率
宮地地区	114	78.1%
坂梨地区	85	45.8%
古城地区	125	52.0%
中道地区	122	63.0%



(図7) 警報は何で知りましたか？



(図8) その情報はよく伝達されたと思いますか。